

領域 8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2023/3/24(土) 18:00 – 19:00

開催地：オンライン (Zoom)

議長：石田 憲二 (領域代表, 京大院理)

司会：橘高 俊一郎 (運営委員代表, 中大理工)

議事録作成：鬼頭 俊介 (書記, 理研 CEMS)

出席者

領域代表 (2022/4 - 2023/3) 石田 憲二 (京大院理)

領域副代表 (2022/4 - 2023/3) 有田 亮太郎 (東大先端研)

領域運営委員 (2022/4 - 2023/3)

下澤 雅明 (阪大基礎工/実験)、鬼頭 俊介 (理研 CEMS/実験)、橘高 俊一郎 (中大理工/実験) 山根 悠 (兵庫県立大/実験)、杉本 高大 (慶大理工/理論)

領域運営委員 (2022/10 - 2023/9)

寺嶋 健成 (NIMS/実験)、白川 知功 (理研/理論)、大塚 雄一 (理研/理論)、清水 悠晴 (東北大金研/実験)

次期領域運営委員 (2023/4 - 2024/3)

石田 茂之 (産総研/実験)、黒澤 徹 (室工大/実験)、西口 和孝 (神戸大/理論)、中村 翔太 (名工大/実験)、金子 竜也 (阪大/理論)

参加者：37 名 (上記出席者を含めて)

議題 1：プログラム編集について (橘高)

通常の大会との変更点

- 1) 2023 年春季大会は 4 日間の完全オンライン開催となった。
- 2) 領域 8 主催のシンポジウムは 2 日目と 3 日目の午後に設定した。
- 3) ポスターは (3/22~25) 終日掲載され、各領域で設定された日の 16 時—18 時に 2 時間のプレゼン時間が設けられた。領域 8 の 2 つのポスターセッションのプレゼンは、他領域との重複登壇者回避のためにいずれも 3 日目に設定した。
- 4) これまで学生優秀発表賞は年次大会に開催される規定であったが、2023 年 3 月の物理

学会は春季大会となったため、学生優秀発表賞の決定規則・募集要項を更新し、初めての春季大会開催となった。

反省点・提案

- 1) 運営代表と運営副代表の連絡には Slack (無料版)、他の運営委員との連絡にはメールを用いた。大きな問題はなく、連絡手段として十分であった。
- 2) 引き継ぎ書に必要な情報が記載されており、問題を予見して対応することができた。追記が増えて混乱もあったので、情報を整理して引き継ぎたい。
- 3) 500 人参加可能な 3 つの Zoom 会場のおかげでセッション配置の自由度は高かった。一方、学生賞候補者が 9 つの別セッションに割り当てられ、仮に現地開催だった場合には教室サイズによる制約も加わり調整が難航したと思われる。

2022/12/7 時点

2023 春 一般講演(申込みベース)

	口頭	ポスター	合計
低温	128	48	176
磁性	62	40	102
全体	190	88	278

(参考) 2022 秋 (東工大+Web)

	口頭	ポスター	合計
低温	140	52	192
磁性	61	48	109
全体	201	100	301

[“2022 春”の表における

“磁性”と“低温”の定義]

磁性：第一キーワードが 4f 電子系

または 5f 電子系

低温：第一キーワードがそれら以外

今大会の概要集提出率

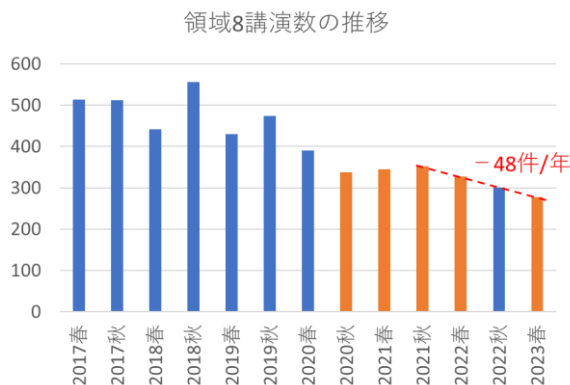
2023年春季大会 概要集提出率

領域	講演者数	論文提出数	論文提出率
領域1	143	138	96.5%
領域2	88	83	94.3%
領域3	159	149	93.7%
領域4	105	99	94.2%
領域5	153	149	97.3%
領域6	99	96	96.9%
領域7	91	86	94.5%
領域8	291	283	97.2%
領域9	86	83	96.5%
領域10	72	70	97.2%
領域11	268	246	91.7%
領域12	126	122	96.8%
領域13	69	65	94.2%
素粒子論領域	178	96	53.9%
素粒子実験領域	225	168	74.6%
理論核物理領域	140	117	83.5%
実験核物理領域	157	143	91.0%
宇宙線・宇宙物理領域	227	169	74.4%
物理と社会	5	4	80.0%
理事会企画	8	7	87.5%
合計	2690	2373	88.2%

物性合計	1750	1669	95.4%
素核宇合計	927	693	74.8%

領域 8 最も件数が多い。

素核宇と比較して物性の概要集提出率は高い。



2023 春 (Web)	278
2022 秋 (東工大+Web)	301
2022 春 (Web)	327
2021 秋 (Web)	352
2021 春 (Web)	345
2020 秋 (Web)	337
2020 春 (コロナ中止)	390
2019 秋 (岐阜大)	474
2019 春 (九州大)	430
2018 秋 (同志社大)	556
2018 春 (東京理科大)	442
2017 秋 (岩手大)	512
2017 春 (阪大)	513

講演数は減少を続けており、最低値を更新した。

議題2：領域委員会報告（石田）

報告事項

1. 担当理事報告（寺崎 一郎 委員長、川畑 貴裕 副委員長）
 - ・2023 年春季大会および第 78 回年次大会（2023 年）の開催方法について
2023 年は例年とは異なり秋に年次大会が現地開催となることが報告された。
 - ・2022 年秋季大会終了後のアンケート結果の報告
次回の現地開催の方法に関しての会員宛でのアンケート結果が紹介され、「オンライン配信の有無」やそれに伴う「参加費の値上げ」に関する希望調査の結果、意見の過半数が「参加費据え置き」を希望していたことが報告された。

審議事項

1. 2023 年春季大会 物理と社会・理事会企画・記念講演の採択
 - ・物理と社会： 1 件採択（条件付含む）、0 件不採択
 - ・理事会企画： 1 件採択（条件付含む）、0 件不採択
 - ・若手奨励賞記念講演： 16 件採択（条件付含む）、0 件不採択
 - ・米沢賞受賞記念講演： 1 件採択（条件付含む）、0 件不採択
2. 2023 年春季大会 素核宇・物性領域 招待・企画講演、シンポジウム講演の採択
物性領域プログラム小委員会採択結果についての報告
物性領域プログラム小委員会は、寺崎委員長が議長を務めた。結果は次のとおり。

- ・ 招待講演： 7 件採択（条件付含む）、0 件不採択
- ・ 企画講演： 2 件採択（条件付含む）、0 件不採択
- ・ チュートリアル： 4 件採択（条件付含む）、0 件不採択
- ・ シンポジウム（一般）： 9 件採択（条件付含む）、0 件不採択
- ・ シンポジウム（共催）： 1 件採択（条件付含む）、0 件不採択

（※条件付で採択された提案については、申請書を提出し大会担当理事の承認が必要となる。）

なお、3 時間 30 分を超えるシンポジウムについては、3 時間 30 分以内に調整するか、提案書に理由書を附してもらうことについても再確認された。

3. その他

✓ オンライン開催におけるポスターセッションの在り方について意見交換を行い、領域からは以下のような意見があがった。

- ・ オンラインで一度件数が減ったがまた増加傾向にあり、現在の方法でもできそうな感じもある。
- ・ 以前に現地開催との併用のために夜間に行われたことがあったが、今後は避けてほしい。
- ・ 件数が減って以降、いまのところ件数が戻っていない。

✓ プログラム編集の効率化に関する意見交換を行った。領域 11 からは、領域委員間の円滑なコミュニケーションツールと、プログラム編集時にリアルタイムで領域間で調整できる相互編集ツールの導入希望があった。一方で、物理学会の参加費が他学会に比べてかなり安価であり、現状の参加費では導入できるサービスにも限界があることが委員長から説明があった。

✓ 近年、オンライン方式が浸透したことでシンポジウムに海外の講演者を含むことが増えてきており、今後は 1 件でも英語講演を含む場合は、そのシンポジウムの講演すべてを英語講演にできないか、委員長から提案があった。

✓ 上記の議題の 3 点、「オンライン時のポスターセッションの在り方」「プログラム編集の効率化」「英語講演を含むシンポジウムの全講演の英語化」に関して、宿題としてとりまとめて委員長から改めて領域あてに送付し、インフォーマルミーティング等で持ち帰り議論してもらうこととした。

議題 3：次期領域代表・副代表および運営委員の紹介（橘高）

領域代表 （2023/4-2024/3）有田 亮太郎（東大先端研）

領域副代表（2023/4-2024/3）永崎 洋（産総研）

石田 茂之（産総研 低温・実験）

黒澤 徹（室工大 低温・実験） 運営代表

西口 和孝（神戸大 低温・理論）
中村 翔太（名工大 磁性・実験）
金子 竜也（阪大 磁性・理論） 運営副代表

任期：2023 年 4 月～2024 年 3 月

次期（2023/4～2024/3）運営委員の紹介があった。次期の役割分担は下記のように決定した。

次期 運営代表	黒澤 徹
次期 運営副代表	金子 竜也
次期 web 担当	中村 翔太
次期 書記	西口 和孝
次期 学生賞	石田 茂之

次期運営代表と運営副代表は承認された。次期の方全員から一言挨拶があった。

議題 4：次次期領域運営委員の推薦・承認（大塚）

田中 将嗣（九工大工	低温・実験）
曾田 繁利（理研	低温・理論）
田端 千紘（原子力機構物質科学セ	磁性・実験）
土射津昌久（奈良女子大	磁性・理論）

任期：2023 年 10 月～2024 年 9 月

大塚先生から次次期運営委員 4 名の簡単な紹介があり、各氏から一言挨拶があった。
次次期運営委員としてこの場で承認された。

議題 5：そのほか（石田）

1. 領域 8 の発表申込件数の減少に関する意見交換

石田先生(京大)：ヘリウム代金の高騰によって実験自体の進捗が遅れているのではない
か。

有田先生(東大)：理論も実験と繋がっているため、ヘリウム代金高騰の影響を受けてい
る。

大原先生(名工大)：対面に比べてオンラインの方が、学生が学会に参加するモチベー
ションが上がらなくなっている。

石田先生(京大)：学生はまずは物理学学会に参加することを研究のモチベーションにして
いたが、オンラインではその傾向が変わってきている

播磨先生(神戸大)：オンラインの影響は特にポスター発表に出ている。ポスター発表は

現地開催でないとあまり意味がない。

石田先生(京大)：次回は現地開催(東北大学)なので、積極的な学会参加を喚起する。

2. ヘリウム代金の高騰に関する情報共有

大原先生(名工大)：ヘリウム代だけでなく、電気代高騰も研究の進捗に大きな影響を与えている。

石田先生(京大)：今後、ヘリウム代・電気代問題も含めて情報共有をするためにも現地開催の方がよいのではないか？

3. 発表の英語化について

榊原先生(鳥取大)：日本語で発表をしてもスライドが英語であれば外国人も質問をしてくれるので有意義である。一方、学生が英語発表をするのは(指導が)大変である。

石田先生(京大)：ポスター発表の一部の時間を英語発表にするのはどうか？

播磨先生(神戸大)：スライドを英語にするは賛成。

有田先生(東大)：日本人同士のコミュニケーションは日本語の方が効率的である。自動翻訳機能の発展によって、今後、スライドの英語化に関する労力は急激に小さくなるだろう。

石田先生(京大)：領域8としてはスライドの英語化を推奨していく。

4. プログラム編集に関する意見

橘高先生(中央大)：領域内のプログラム編集はこれまでの積み重ねで(作業の引継ぎによって)比較的円滑になっているが、他の領域間とのコミュニケーションには未だ検討の余地がある。

石田先生(京大)：やはり引継ぎをしっかりとすることが重要。

5. 質問

榊原先生(鳥取大)：次回のインフォーマルミーティングは現地(東北大)で行えるのか？
昼休みに行えるのか？

有田先生(東大)：インフォーマルミーティングを学会三日目の昼休みに行うことを検討する。

インフォーマルミーティング終了後 (19:04～)

各自引継ぎ項目の確認をした。

以上